

Ibaraki Association of Architects & Building Engineers

けんちく茨城

No. 88 June, 2015

[特集]

古きを温ねて新しきを知る

「いばらき地域文化財専門技術者
育成研修」3年3期を終えて

「いばらき木造塾」初年度終了！

[報告]

平成27年度通常総会

[建築作品紹介]

常陸太田市立峰山中学校



一般社団法人
茨城県建築士会

目次

	平成27年度通常総会開催される	1
[総務・企画委員会報告]	平成26年度収支計算書／平成27年度収支予算書／平成27年度事業計画	2
	古きを温ねて新しきを知る	
[特集]	1. 茨城県建築士会活動報告 3年3期で総勢97名の「ヘリテージマネージャー」が誕生。 今後の活躍に期待!	7
	2. 茨城県建築士会活動報告 「いばらき木造塾」初年度終了!	12
	3. 茨城県建築士会会員受賞報告 「再築大賞 最優秀賞」行方支部の古谷野勝次氏が受賞!	14
[建築作品紹介]	常陸太田市立峰山中学校	16
[シリーズ]	先輩会員を訪ねて 滑川 浩一氏、荒川 芳和氏 インタビュー	18
[新シリーズ]	ようこそフレッシュマン! 井坂 陽子さん、清水 智之さん、樋田 康子さん	19
[研修委員会報告]	「建築設計業務におけるBIMに関する講習会」開催。	20
[会員委員会報告]	今年も皆さんの力作が揃いました! 第18回会員美術展	21
[まちづくり委員会報告]	全国のまちづくり活動事例の数々に建築士会のさらなる可能性を感じた日。	22
[青年委員会報告]	二級建築士免許証明書交付式を開催。	23
[女性委員会報告]	「全国女性建築士連絡協議会」に参加して。 「わくわくセミナー」地図や地名からたどる土地の生い立ちのロマン。	24 25
[ひたちなか支部報告]	「探訪」シリーズ 今回は東海村の3施設へ。	26
[石岡支部報告]	皆が一丸となり、石岡支部活動充実の日々。	27
[高萩支部報告]	高萩支部フレッシュマンの活動報告。	28
[常総支部報告]	ヘリテージマネージャーの視点で見た世界遺産「日光東照宮」。	29

会報 **けんちく茨城**

題字 **橋本 昌** 茨城県知事

2015年6月 第88号

表紙写真 **常陸太田市立峰山中学校**

設計・監理 (株)横須賀満夫建築設計事務所

所在地 常陸太田市

建築面積 3,147.74㎡

延床面積 4,886.80㎡

構造・規模 RC造

2階建て

竣工日 2010年12月

発行 平成27年6月12日(年3回発行)

次回発行 平成27年10月6日予定

発行部数 2,500部

発行所 一般社団法人 茨城県建築士会 会長 柴 和伸

〒310-0852 水戸市笠原町978-30 建築会館2F

TEL.029-305-0329 FAX.029-305-0330

Eメール kyy05413@nifty.com

編集 情報・広報委員会

デザイン 有限会社平井情報デザイン室

印刷所 株式会社あけぼの印刷社



第64回となる平成27年度通常総会が5月29日(金) 県民文化センター小ホールにおいて開催された。

松山副会長による開会宣言の後、平成26年度に亡くなられた県央支部小滝吉司氏他12名に対し黙祷が行われ、続いて柴会長が挨拶。国内の経済状況として株価の上昇、企業業績の回復など、長引くデフレから脱却しつつある状況ではあるが、我々建築業界においては資材の高騰、人材不足、入札不調などまだまだ厳しい環境にあり、皆さんと共に力を合わせ乗り切っていかなければならないこと。また今年度の本会の主な事業としては、主眼としてきた木造技術者育成事業の継続、工事管理者セミナーの継続、2年目となる「いばらき木造塾」の開催、社会問題化している空き家対策など建築士会としての行政への協力、県木連主催の木材利用拡大事業への参加、ヘリマネいばらき協議会の発足のほか、各種講習会の開催、会員の皆さんへの情報提供などを引き続き行い、今後も組織の強化と会員増強に努めていきたいと述べた。功労者表彰では、長年にわたり士会発展のためにご尽力いただいた行方支部本澤幸一氏ら10名に表彰状と記念品が贈られた。続いて来賓の橋本昌県知事、高橋靖水戸市長、白田信夫県議会議員、伊沢勝徳県議会議員よりそれぞれ祝辞をいただいた。

祝電披露の後、議事に入り平成26年度事業報告と収支決算、会計監査報告、平成27年度事業計画(案)と収支予算(案)など5議案を審議。原案通り全会一致で可決し、総会は市毛副会長の閉会のことにより閉会となった。当日は360名の出席と300名の委任状があり定足数に達していることを報告いたします。また、総会終了後は県民文化センターグレルにおいて懇親会が開催された。

● 来賓の方々

茨城県知事
衆議院議員 建築士会顧問
水戸市長 建築士会顧問
茨城県議会議員 建築士会顧問
茨城県議会議員 建築士会顧問
茨城県土木部技監兼都市局建築指導課長
茨城県土木部技監兼都市局住宅課長
茨城県土木部宮繕課長
(一社)茨城県建築士事務所協会 会長
日本建築学会関東支部茨城支所長
(公社)日本建築家協会関東甲信越支部茨城地域会 会長
(一社)茨城県設備設計事務所協会 会長
(一財)茨城県建築センター 理事長
(一社)茨城県建築士会 相談役
(一社)茨城県建築士会 相談役
茨城新聞社 社長
日本工業経済新聞社 水戸支局長
日本建設新聞社 水戸総局長

橋本 昌 様
田所 嘉徳 様
高橋 靖 様
白田 信夫 様
伊沢 勝徳 様
山田 茂 様
中村 浩 様
鈴木 安行 様
横須賀 満夫 様
益子 一彦 様
河野 正博 様
菊地 繁 様
野澤 謙次 様
滑川 浩一 様
田中 實 様
小田部 卓 様
吉濱 俊樹 様
井上 哲郎 様

平成26年度収支計算書

自 平成26年 4月 1日

至 平成27年 3月31日

I 事業活動収支の部

1. 事業活動収入

(単位：円)

大科目	中科目	小科目	予算額	決算額	差額
入会金収入	入会金収入	入会金収入	220,000	319,000	△99,000
会費収入	会費収入		32,550,000	31,910,000	640,000
		正会員会費収入	27,960,000	27,139,000	821,000
		準会員会費収入	540,000	531,000	9,000
		賛助会員会費収入	4,050,000	4,240,000	△190,000
事業収入			44,612,000	43,748,057	863,943
	講習会収入		10,100,000	6,775,269	3,324,731
		法定定期講習会費収入	2,400,000	2,261,861	138,139
		総合研修会費収入	1,230,000	2,145,000	△915,000
		研修講習会費収入	6,470,000	2,368,408	4,101,592
	図書等頒布収入	図書等頒布収入	6,545,000	8,467,450	△1,922,450
	事業受託収入		20,165,000	21,038,138	△873,138
		試験受託収入	4,975,000	4,953,960	21,040
		調査受託収入	3,040,000	3,153,600	△113,600
		判定士認定業務受託収入	3,250,000	2,760,000	490,000
		事務受託収入	1,340,000	1,915,778	△575,778
		耐震診断派遣業務受託収入	7,560,000	8,254,800	△694,800
	手数料収入	二級・木造建築士事務手数料収入	2,150,000	2,405,260	△255,260
	委員会部会等事業収入	事業収入	5,652,000	5,061,940	590,060
補助金等収入			200,000	400,000	△200,000
	事業助成金収入		200,000	400,000	△200,000
		連合会助成金	200,000	400,000	△200,000
雑収入			8,547,000	9,405,622	△858,622
	受取利息収入		2,000	7,610	△5,610
	雑収入	資料発送支部負担金収入	2,520,000	2,835,120	△315,120
		広告協賛金収入	5,810,000	6,130,000	△320,000
		雑収入	215,000	432,892	△217,892
事業活動収入計			86,129,000	85,782,679	346,321

2. 事業活動支出

(単位：円)

大科目	中科目	小科目	予算額	決算額	差額
事業費支出			39,066,000	36,691,997	2,374,003
	講習会費		5,640,000	3,257,903	2,382,097
		法定定期講習会費支出	500,000	457,116	42,884
		総合研修会費支出	810,000	770,142	39,858
		研修講習会費支出	4,330,000	2,030,645	2,299,355
	けんちく茨城印刷費支出		2,190,000	2,247,691	△57,691
	情報通信普及推進費		210,000	138,240	71,760
	CPD制度推進費支出		170,000	135,576	34,424
	委託事業費支出		12,310,000	12,954,187	△644,187
		調査業務実施費支出	2,600,000	2,582,592	17,408
		応急危険度判定士認定業務費支出	1,030,000	973,768	56,232
		耐震診断派遣業務委託費支出	6,480,000	7,233,837	△753,837
		試験業務実施費支出	1,500,000	1,510,134	△10,134
		事務受託支出	700,000	653,856	46,144
	普及宣伝費		730,000	783,155	△53,155
		対社会の事業費支出	200,000	423,439	△223,439
		会員増強促進費支出	280,000	176,892	103,108
		広報費支出	250,000	182,824	67,176
	研修費		5,270,000	4,447,914	822,086
		研修費支出	600,000	575,836	24,164
		親睦事業費支出	4,670,000	3,872,078	797,922
	委員会費支出		1,605,000	1,593,369	11,631
	青年女性委員会活動費支出		1,931,000	1,118,846	812,154
	賛助会活動費支出		270,000	257,349	12,651
	助成金支出		1,800,000	1,596,000	204,000
	まちづくり活動費支出		1,280,000	1,013,288	266,712
	出版事業費支出		3,760,000	5,810,649	△2,050,649
	地域貢献活動費支出		1,900,000	1,337,830	562,170

管理費支出		55,899,857	53,134,328	2,765,529
給与手当支出		21,366,000	20,155,382	1,210,618
給料支出		15,980,000	15,815,670	164,330
手当支出		5,386,000	4,339,712	1,046,288
中退金掛金支出		516,000	550,720	△34,720
福利厚生費支出		3,600,000	3,425,957	174,043
会議費支出		3,790,000	3,618,950	171,050
總會費支出		1,660,000	1,813,876	△153,876
理事会費支出		780,000	691,570	88,430
諸会議費支出		1,350,000	1,113,504	236,496
会計報酬支出		252,000	259,200	△7,200
租税公課費支出		1,000,000	1,118,300	△118,300
負担金支出		9,230,000	9,181,667	48,333
連合会費支出		8,110,000	8,132,274	△22,274
関プロ会費支出		780,000	592,193	187,807
団体会費支出		340,000	457,200	△117,200
旅費交通費支出		700,000	622,266	77,734
通信運搬費支出		3,700,000	3,333,885	366,115
什器備品費支出		140,000	169,020	△29,020
消耗品費支出		1,450,000	1,082,406	367,594
印刷製本費支出		2,020,000	1,844,526	175,474
地代支出		378,000	378,000	0
慶弔費支出		2,300,000	2,506,620	△206,620
家賃支出		1,036,000	1,077,700	△41,700
事務所共益費支出		800,000	806,300	△6,300
機械借損費支出		2,315,000	2,339,788	△24,788
雑支出		1,306,857	663,641	643,216
予備費支出		2,432,426	0	2,432,426
事業活動支出計		97,398,283	89,826,325	7,571,958
事業活動収支計		△11,269,283	△4,043,646	△7,225,637

II 投資活動収支の部

1. 投資活動収入

(単位：円)

大科目	中科目	小科目	予算額	決算額	差額
特定資産取崩収入	積立預金取崩収入	運営資金取崩収入	5,000,000	5,000,000	0
投資活動収入計			5,000,000	5,000,000	0

2. 投資活動支出

(単位：円)

大科目	中科目	小科目	予算額	決算額	差額
特定資産取得支出	積立預金取得支出		1,200,000	1,200,000	0
		運営資金積立預金取得支出	0	0	0
		70周年積立預金取得支出	500,000	500,000	0
		関プロ茨城積立預金取得支出	200,000	200,000	0
		災害積立預金取得支出	500,000	500,000	0
投資活動支出計			1,200,000	1,200,000	0
投資活動収支差額			3,800,000	3,800,000	0

III 財務活動収支の部

1. 財務活動収入

(単位：円)

大科目	中科目	小科目	予算額	決算額	差額
財務活動収入計			0	0	0

2. 財務活動支出

(単位：円)

大科目	中科目	小科目	予算額	決算額	差額
財務活動支出計			0	0	0
財務活動収支差額			0	0	0
当期収支差額			△7,469,283	△243,646	△7,225,637
前期繰越収支差額			7,469,283	7,469,283	0
次期繰越収支差額			0	7,225,637	△7,225,637

平成27年度収支予算書

自 平成27年 4月 1日

至 平成28年 3月31日

I 事業活動収支の部

1. 事業活動収入

(単位：円)

大科目	中科目	小科目	平成27年度予算額 (A)	平成26年度予算額 (B)	差額 (A-B)
入会金収入	入会金収入		170,000	220,000	△50,000
会費収入	会費収入		31,740,000	32,550,000	△810,000
		正会員収入	27,000,000	27,960,000	△960,000
		準会員収入	540,000	540,000	0
		賛助会員収入	4,200,000	4,050,000	150,000
事業収入			41,030,000	44,612,000	△3,582,000
	講習会収入		8,340,000	10,100,000	△1,760,000
		法定定期講習会収入	2,050,000	2,400,000	△350,000
		総合研修会収入	1,500,000	1,230,000	270,000
		研修講習会収入	4,790,000	6,470,000	△1,680,000
	図書等頒布収入		5,000,000	6,545,000	△1,545,000
	事業受託収入		21,530,000	20,165,000	1,365,000
		試験受託収入	4,900,000	4,975,000	△75,000
		調査受託収入	4,540,000	3,040,000	1,500,000
		判定士認定業務受託収入	2,750,000	3,250,000	△500,000
		事務受託収入	1,840,000	1,340,000	500,000
		耐震診断派遣業務受託収入	7,500,000	7,560,000	△60,000
	手数料収入	二級・木造建築士事務手数料収入	2,020,000	2,150,000	△130,000
	委員会等事業収入	事業収入	4,140,000	5,652,000	△1,512,000
補助金等収入	事業助成金収入		200,000	200,000	0
		連合会助成金収入	200,000	200,000	0
雑収入	雑収入		7,840,000	8,547,000	△707,000
		受取利息収入	10,000	2,000	8,000
		資料発送支部負担金収入	2,010,000	2,520,000	△510,000
		広告協賛金収入	5,600,000	5,810,000	△210,000
		雑収入	220,000	215,000	5,000
事業活動収入計			80,980,000	86,129,000	△5,149,000

2. 事業活動支出

(単位：円)

大科目	中科目	小科目	平成27年度予算額 (A)	平成26年度予算額 (B)	差額 (A-B)
事業費支出			38,930,000	39,066,000	△136,000
	講習会費支出		5,000,000	5,640,000	△640,000
		法定定期講習会費支出	470,000	500,000	△30,000
		総合研修会費支出	1,000,000	810,000	190,000
		研修講習会費支出	3,530,000	4,330,000	△800,000
	けんちく茨城印刷費支出		2,100,000	2,190,000	△90,000
	情報通信普及推進費支出		160,000	210,000	△50,000
	CPD制度推進費支出		170,000	170,000	0
	委託事業費支出		13,360,000	12,310,000	1,050,000
		調査業務実施費支出	3,930,000	2,600,000	1,330,000
		応急危険度判定士認定業務費支出	950,000	1,030,000	△80,000
		耐震診断派遣業務委託費支出	6,410,000	6,480,000	△70,000
		試験業務実施費支出	1,500,000	1,500,000	0
		事務受託支出	570,000	700,000	△130,000
	普及宣伝費支出		930,000	730,000	200,000
		対社会的事業費支出	350,000	200,000	150,000
		会員増強促進費支出	330,000	280,000	50,000
		広報費支出	250,000	250,000	0
	研修費支出		5,000,000	5,270,000	△270,000
		研修費支出	660,000	600,000	60,000
		親睦事業費支出	4,340,000	4,670,000	△330,000
	委員会費支出		1,600,000	1,605,000	△5,000
	青年女性委員会活動費支出		2,000,000	1,931,000	69,000
	賛助会活動費支出		200,000	270,000	△70,000
	助成金支出		1,800,000	1,800,000	0
	まちづくり活動費支出		1,540,000	1,280,000	260,000
	出版事業費支出		3,070,000	3,760,000	△690,000
		図書製本支出	700,000	1,550,000	△850,000
		用紙費支出	0	0	0
		幹旋図書費支出	2,300,000	2,150,000	150,000
		確認表示板費支出	70,000	60,000	10,000
	地域貢献活動費支出		2,000,000	1,900,000	100,000

管理費支出		49,850,000	55,899,857	△6,049,857
給与手当支出		18,600,000	21,366,000	△2,766,000
給与支出		14,700,000	15,980,000	△1,280,000
手当支出		3,900,000	5,386,000	△1,486,000
中退金掛金支出		420,000	516,000	△96,000
福利厚生費支出		3,000,000	3,600,000	△600,000
会議費支出		3,100,000	3,790,000	△690,000
総会費支出		1,600,000	1,660,000	△60,000
理事会費支出		800,000	780,000	20,000
諸会議費支出		700,000	1,350,000	△650,000
会計報酬費支出		260,000	252,000	8,000
租税公課費支出		1,000,000	1,000,000	0
負担金支出		8,910,000	9,230,000	△320,000
連合会費支出		8,010,000	8,110,000	△100,000
関プロ会費支出		600,000	780,000	△180,000
団体会費支出		300,000	340,000	△40,000
旅費交通費支出		700,000	700,000	0
通信運搬費支出		3,700,000	3,700,000	0
什器備品費支出		140,000	140,000	0
消耗品費支出		1,450,000	1,450,000	0
印刷製本費支出		600,000	2,020,000	△1,420,000
地代支出		378,000	378,000	0
慶弔費支出		2,300,000	2,300,000	0
家賃支出		1,036,000	1,036,000	0
事務所共益費支出		800,000	800,000	0
機械借損費支出		2,200,000	2,315,000	△115,000
雑支出		1,256,000	1,306,857	△50,857
予備費支出		1,725,637	2,432,426	△706,789
事業活動支出計		90,504,637	97,398,283	△6,893,646
事業活動収支差額		△9,524,637	△11,269,283	△1,744,646

II 投資活動収支の部

1. 投資活動収入

(単位：円)

大科目	中科目	小科目	平成27年度予算額(A)	平成26年度予算額(B)	差額(A-B)
特定資産取崩収入	積立預金取崩収入		4,000,000	5,000,000	△1,000,000
		運営資金積立預金取崩収入	4,000,000	5,000,000	△1,000,000
		70周年積立預金取崩収入	0	0	0
		関プロ茨城大会積立預金取崩収入	0	0	0
		災害積立預金取崩収入	0	0	0
	貸付金回収収入	長期貸付金収入	0	0	0
投資活動収入計			4,000,000	5,000,000	△1,000,000

2. 投資活動支出

(単位：円)

大科目	中科目	小科目	平成27年度予算額(A)	平成26年度予算額(B)	差額(A-B)
特定資産取得支出	積立預金取得支出		1,700,000	1,200,000	500,000
		運営資金積立預金取得支出	500,000	0	500,000
		70周年積立預金取得支出	500,000	500,000	0
		関プロ茨城積立預金取得支出	200,000	200,000	0
		災害積立預金取得支出	500,000	500,000	0
投資活動支出計			1,700,000	1,200,000	500,000
投資活動収支差額			2,300,000	3,800,000	△1,500,000

III 財務活動収支の部

1. 財務活動収入

(単位：円)

大科目	中科目	小科目	平成27年度予算額(A)	平成26年度予算額(B)	差額(A-B)
財務活動収入計			0	0	0

2. 財務活動支出

(単位：円)

大科目	中科目	小科目	平成27年度予算額(A)	平成26年度予算額(B)	差額(A-B)
財務活動支出計			0	0	0
財務活動収支差額			0	0	0
当期収支差額			△7,225,637	△7,468,283	243,646
前期繰越収支差額			7,225,637	7,468,283	△243,646
次期繰越収支差額			0	0	0

平成27年度事業計画

指導事業

01. 会員増強及び組織強化
02. いばらき木造塾の実施
03. 工事管理者セミナーの実施
04. 建築士試験業務の実施
05. 一級建築士免許申請事務及び二級、木造建築士登録事務の実施
06. 建築士法第22条第2項による「定期講習」の実施
07. 知事指定講習会「建築士技術講習会」の実施
08. 建築バトロール調査の実施
09. 木造住宅耐震診断士派遣事業の実施
10. 応急危険度判定士の更新及び登録事務の実施
11. 災害発生時支援活動の協力体制の充実と災害積立金の実施
12. 全国被災建築物応急危険度判定協議会への協力
13. 茨城県安全安心実施計画の協力
14. 緑化推進事業の推進
15. まちづくり事業の推進及び地域貢献事業の実施
16. 建築士の継続能力開発 (CPD) 制度及び専攻建築士制度の推進
17. 建築士会全国大会「石川大会」への参加促進
18. 関東甲信越建築士会ブロック会青年協議会「群馬大会」への参加促進

19. 建築士賠償・工事賠償責任補償制度の加入促進
20. ホームページによる情報提供及び広報活動の推進

調査・研究

21. 建築士業務の適正運営の推進
22. 新規事業の企画・立案

情報提供・図書の斡旋

23. 会報誌の発刊、支部との情報交流の推進
24. 建築確認申請・建築許可・都市計画法関係諸書式の頒布
25. 建築士受験関係図書その他参考図書の斡旋

国家褒章等

26. 国家褒章等の上申
27. 連合会表彰の上申及び功労者表彰の実施
28. 会員増加優良支部の表彰の実施
29. 建築優良作品の推薦

その他

30. 行政機関及び関係諸団体との協力体制の維持
31. 本会の目的達成のために必要な事業の実施

建築士のみなさん 免許を 提示していますか？



設計または工事監理の受託契約に関する重要事項説明の際、
建築士の「免許証明書」もしくは「免許証」の提示が義務付けられています。

建築士法第24条の7第2項より

管理建築士等は、建築主との契約前に重要事項の説明をするときは、当該建築士に対し、一級建築士免許証、二級建築士免許証若しくは木造建築士免許証又は一級建築士免許証明書、二級建築士免許証明書若しくは木造建築士免許証明書を提示しなければならない。

カード型免許証明書は

ICチップ内蔵により、
偽造・変更が
極めて困難です

顔写真入りで、
契約時の信頼性が
高まります

建築士会
CPDカード*
としても使えます



*建築士会CPD制度に参加している建築団体・企業が主催する講習や研修などで、ICカードリーダーにタッチすることにより、出席記録、単位登録ができます。

中央指定登録機関

(公社)日本建築士会連合会

〒108-0014 東京都港区芝5-26-20 建築会館5F Tel:03-6436-1401

[特集]

茨城県建築士会では、近年、地域に残る伝統的な建造物の研究を進め、それらを保存するための活動に力を注いでいます。たとえば木造建築の優れた点を知り、その技法を学ぶこと。また、伝統的な建築物が建ち並ぶまち並みが地域にもたらす価値を知ること——そういった活動が、今後、地域に豊かさをもたらす“鍵”となることを確信しているからです。「古きを温ねて新しきを知る」を実践する会の活動と、その成果ともいえる会員の受賞について報告します。

古きを

温ねて



茨城県建築士会活動報告

3年3期で総勢97名の「ヘリテージマネージャー」が誕生。
今後の活躍に期待!

新しきを



茨城県建築士会活動報告

「いばらき木造塾」初年度終了!

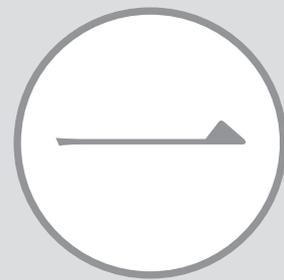


茨城県建築士会会員
受賞報告

「再築大賞 最優秀賞」
行方支部の
古谷野勝次氏が受賞!

知る

3年3期で総勢97名の ヘリテージマネージャーが誕生。 今後の活躍に期待！



2012年にスタートした「いばらき地域文化財専門技術者育成研修」——通称「ヘリテージマネージャー研修」が、3年3期を終え、まちづくり委員会が主導する第一段階が完了しました。この3年間の成果を振り返りながら、次の段階——修了生が研修成果をどう地域のために生かし、地域と連携していくか、その姿を探ります。

報告：梶 ひろみ
(まちづくり委員会委員長)

歴史的建造物やまち並みを守り、次世代に引き継いでいく人材の育成を目的にスタートしたこの研修は、去る3月28日の修了式で3年3期を終え、97名のいばらき地域文化財専門技術者（ヘリテージマネージャー）が誕生しました。これでひとまずこの研修の第一段階が終了しました。毎年定員を超える熱心な受講生の皆さんに集まっていたいただき、全10回計60時間の現場実習を含む講義と課題に多くのエネルギーを注いでいただきま

した。特に、グループに分かれて取り組んだ課題は、地域に埋もれている歴史的建造物の掘り起こしと、保存・活用の提言を所有者や行政・地域住民に伝えるという、まさにヘリテージマネージャーの役割の実践であったと言えます。

地域性を重視した 意義深い研修内容

3期を通じてタイムリーな題材と講師陣で独自のカリキュラムを構



【第1回】平成24年7月
神戸信俊先生



【第2回】平成24年8月
梅津章子先生



【第3回】平成24年8月
金出ミチル先生



【第8回】平成25年1月
苅谷勇雅先生



【第10回】平成25年3月
第1期生修了式

第Ⅰ期

成しました。

【2012年度・第1期】大工職などの技術者の受講が多く、グループワークは最初から盛り上がりを見せました。カリキュラムの構成はまだまだ手探り状態でしたが、現場実習が多く、それを補完する形となりました。

【2013年度・第2期】保存か解体か検討中の建物で調査実習・活用提言を行ったり、文化財の保存改修工事の過程を検証したり、深く考えさせられる現場実習が特徴でした。また、受講生からの要望に応えながらカリキュラムがブラッシュアップされていきました。

【2014年度・第3期】最終期の研修で欠席も2回までと決めたため、プレッシャーの中で健闘していただきました。欠席者の補修課題もかなりハードで、3年間で一番きついカリキュラムでしたが、2年間の

反省をもとに改善した部分もあり、素晴らしい講師陣のもと、他県に誇れる内容だったと思います。

今後は新組織で 修了生を中心に活動

3年間、まちづくり委員会が担当し運営してきましたが、今年度からは修了生を中心に新組織を立ち上げ活動を進めていきます。継続的なステップアップセミナーを実施していくと同時に、県教育庁文化課や各自治体の要請に応え、歴史的建造物調査業務を受託するなど、実践的に試行錯誤しながら「歴史的建造物の保全・活用等の提案・調整」を業務として行うことが必要です。また、東日本大震災のような災害時には、歴史的建造物に対する応急処置と修復を図る方法などを長期的な視野で提案し、さら



【第3回】平成25年8月
歴史的まち並み調査についての講義



【第3回】平成25年8月
旧下妻町役場の調査実習



【第3回】平成25年8月
グループごとに調査結果と活用提案を発表



【第4回】平成25年9月
梅津会館修復工事の設計を現場で確認

に地域との連携を深めていくことも大切な役割となります。

日本の伝統文化や 技術を守るために

東日本大震災により被災した文化財建造物の復旧費用として、国と県では災害復旧工事費の補助を決定しましたが、補助対象となったのは指定文化財、登録文化財、及び重要伝統的建造物群保存地区内の建造物など文化財と分類されるものに限られました。

文化財の指定制度は厳しい制約がある中で、この制度を補完するものとして平成8年に導入された登録有形文化財制度は原則として

第Ⅲ期

【第3回】平成26年8月30日
梅津福次郎と西山研修所



梅津福次郎翁の寄付により建てられた旧太田町役場（梅津会館）の修復再生工事を見学。同じく翁の寄付により建てられた西山研修所の調査も実施しました。

【第4回】平成26年9月27日
藤川先生まち歩き



藤川昌樹先生による常陸太田市鯨ヶ丘の歴史的まち並みの調査をもとに、先生とまち歩きをしながら、江戸期からのまち割りが残る場所を確認しました。

【第5回】平成26年10月18日
現場実習「小舞掻き」



グループに分かれて竹割りを体験した後、小舞掻き（土壁の下地として竹を編んでいく作業）を行いました。

建設後50年を経過した建造物で、
○国土の歴史的景観に寄与しているもの

○造形の規範になっているもの

○再現することが容易でないもの

以上のいずれかにあたるものと定められています。このことからわかるように歴史的建造物やまち並みが残るそれぞれの地域において、災害時における歴史的建造物の保護には、文化財としての法整備が重要なのです。

まずはできることから！ 地域での役割を見つける

○文化財制度の誤解を解くこと。
登録文化財制度における平常時の優遇措置と、災害後の復旧支援措置を正しく伝えましょう。

○日本の伝統文化・技術を守り継承する意義を伝えるため、建築士

として自身の言葉を持ち、ヘリテージマネージャーが相互に支え合いながら地域の中で役割を見出していきましょう。

最後に、本研修の実施にあたりましてご指導いただいた講師の先生方を右でご紹介しています。有意義な研修を提供いただき本当にありがとうございました。

また、本研修の実施に際し多大なるご支援ご協力をいただきました茨城県教育庁文化課の金澤宏さん、中嶋則夫さん、そして3年3期全30回の講座を支えた本会事務局の助川義浩課長にこの場を借りて深く感謝の意を表します。

今後は、新たに「協議会」を設立します。修了生の皆さんにご入会いただき、調査業務などを行うほか、継続的なステップアップのための研修を行っていく予定です。

講義・実習を担当して下さった先生方（五十音順・敬称略）

稲垣 智也	文化庁文化財調査官（3期）
上野 勝久	東京藝術大学大学院教授（2期） 文化庁主任文化財調査官（3期）
梅津 章子	文化庁文化財調査官（1期）
大野 敏	横浜国立大学理工学部准教授（1期、3期）
大橋 好光	東京都市大学教授（2期）
太田 恒平	茨城県計画課技師（1期）
金澤 宏	茨城県文化課課長補佐（1期～3期）
金出 ミチル	歴史的建造物調査・修復家（1期～3期）
荻谷 勇雅	小山工業高等専門学校校長（1期）
軽部 徹	桜川市役所（3期）
川村 哲夫	文化財修復家（1期）
熊本 達哉	文化庁文化財調査官（2期）
小坪 のり子	弘道館事務所（2期）
神戸 信俊	石岡市・かすみがうら市文化財保護審議委員（1期）
後藤 治	工学院大学教授（2期、3期）
佐藤 武王	文化財建造物保存技術協会（2期）
沢田 伸	ひょうごヘリテージ機構代表世話人（1期）
塩見 寛	静岡県建築士会景観整備機構副代表（1期、3期）
中座 重徳	左官一級技能士（1期）
寺崎 大貴	桜川市役所学芸員（1期～3期）
栃木 義雄	栃木左官代表（2期）
中嶋 則夫	茨城県教育庁文化課文化財保護主事（1期～3期）
西野 保	常陸太田市役所学芸員（1期）
仁平 昌則	桜川市役所文化財グループ長（1期、3期）
長谷川 直司	独立行政法人建築研究所（1期）
福田 聡	茨城県計画課主任（1期、2期）
藤川 昌樹	筑波大学大学院教授（1期～3期）
増淵 靖裕	文化財建造物保存技術協会（2期）
松本 昌義	松本建築設計室（3期）
谷田部 隆二	左官一級技能士（1期）
谷田部 昌芳	左官一級技能士（1期）
山本 兵一	大浜工務店代表（2期）
湯原 正記	茨城県計画課技師（2期）
横内 基	小山工業高等専門学校准教授（1期、2期）

ありがとうございました！

【第5回】平成26年10月18日
大野先生の現場指導



小舞の方法についてたくさんの調査データをお持ちの大野敏先生から、真壁の小舞の特徴について伺いました。

【第7回】平成26年12月20日
文化財の修復現場見学



真壁の重要伝統的建造物群保存地区内の震災復旧工事現場を視察し、改修中の土蔵では建具のおさまりなどについて話を伺いました。

【第10回】平成27年3月28日
上野先生による講評



グループごとの地域文化財発表会では、上野勝久先生から提言のまとめ方についても細やかな講評をいただき、たいへん勉強になりました。

1年間の研修を経て「ヘリテージマネージャー」となった皆さんに聞きました。

——研修でもっとも役にたったことは？

同じような目的意識を持つ人たちと知り合えたこと／文化財としての価値の指標が自分の中で変わったこと／今まで建築的価値ばかり見て「人」を見ていなかったことに気づいたこと／弘道館などを修復作業中の現場で職人さんと会話ができ、多くのことを再認識できたこと。今後、業務での施工方法にも大きく影響すると思う／気をつけて見れば身近にも文化財となり得る建物が隠れているとわかったこと。築50年以上で登録文化財になり得ると知ったことは収穫だった

——研修でもっとも印象に残っていることは？

グループで行った課題製作／同じ価値観を持つ仲間と共同作業をできたこと。メンバーにも恵まれ大変楽しい時間だった／現場実習に尽きる／地域によって建築様式等に違いがあることは知っていたが、壁土にさえ東と西で違いがあると知ったこと／地域に埋もれている文化的建造物が

多くあると認識できたこと／老朽化や自然災害等で、多くの文化的建造物が足跡を残さず消えていることを知ったこと／今まで知らなかった修復技術を知り、一部を体験することができたこと／小舞竹の修復や左官工事を実習できたこと

——研修内容で改善をのぞみたいことは？

調査実習の時間がさらに多いといい。その際、調査する建物を、木造、RC造、土蔵、茅葺などから選択できるとよりいいと思う／最初のステップとしては良い研修であったと思う。次のステップとして保存・修復の技術的（実践的）研修を受けられるようになること／座学（特に登録までの流れ）について、より興味が持てるよう工夫してもらえるとよかった／グループでの調査期間がもう少しほしかった。また、個別調査の宿題があったが、結果をまとめて総覧できる資料があればと思った。各地にどのようなものがあるのか知りたかった／文化財登録申請のための手法ばかりではなく、新たな調査研究的な要素が組

みこまれると、取りまとめる内容にもさらに文化的価値が増すのではないかと思う／指定文化財や登録文化財の管理者、所有者の生の声を研修に反映させてみてはと感じた

——今後研修成果を生かして取り組んでいきたいことは？

地域に残る歴史的建造物の評価、保存と活用に貢献したい／地元にある古建築の調査・記録をしていきたい／旧家の修復等に学んだ調査方法や施工方法を生かしていきたい。今後登録までできるように取り組んでいきたい／県文化課より長屋門の調査依頼があり、研修で培った手法を用いて所有者からのヒアリングや所見までを含め短時間で対応することができた。今後も続けていきたい／資格者同士でチームを組み、調査依頼に対し意見交換をし、協力しながら研究をしていきたい／地域の歴史的建造物を通して時代背景や現存する意義について保存の大切さを地域に浸透させる生涯学習の活動がしたい／研修で得た知識と視点を生かし、人の集まる地域づくりに参加したい

昨年度スタートした「いばらき木造塾」は、木造に関する知識と技術の習得を通じて、真に住みよい家づくりを基本から学ぶことを目的とした講座です。若手建築士や女性建築士を中心とする40名の塾生たちが、初年度全10回の講義及び実習を去る3月に終了。1年間に及ぶ学びの様子を振り返ります。

平成27年度も開催。
1期生も含め多くの参加を。

木造塾塾長 藤井 耕市

柴会長の命により、平成26年度から開講された「いばらき木造塾」。県内の建築士の木造技術の底上げを目的に木造を基礎から勉

強しなおし、一般ユーザーの方々により良い木造住宅を提供できるよう知識と技術を身につけるためのものです。

平成26年6月に第1回の塾が、塾生40名を迎えて開講しました。講師は、連合設計社の吉田桂二氏の愛弟子である松本昌義氏にお願いしました。そして、平成27年3月をもって全10回の塾を終え、無事1年目が終了しました。

この木造塾の講義と実習の内容は全国でも初めての試みだろうと自負しています。

平成27年度も引き続き木造塾を開催します。松本先生も「最低3年間はやりましょう」と言ってくださっています。今後も、第1回目の

塾生も含めて、多くの皆さまの参加をお待ちしています。

「いばらき木造塾」 レポート—第4回から第10回 情報・広報委員会委員長 浅野 祐一郎

本誌86号で第1回から第3回の模様をお伝えしました。ここでは、続く第4回から第10回までの塾の模様をお伝えします。

【第4回】「施主からの聞き取り、営業トーク」と題して、講師にひたちなか支部会員で(株)清水建設代表取締役の清水洋一氏を迎えての講義。自らの体験を交えなが

いばらき木造塾 初年度終了!



第四回

平成26年9月13日⊕【講義】
[講師] 建築士会
[内容] 施主アピール：施主からの聞き取り、営業トーク、手描きパース演習



第五回

10月11日⊕【講義】
[講師] 松本 昌義氏
[内容] 前半：各スペースの要点②（個人、水廻り、収納）／後半：構造と間取り① 架構グリッドプランニングによる間取り（小屋架構、2階床架構と間取りの整合）



第六回



11月8日⊕【実習】 [講師] 菊池 均氏
[内容] 木材の加工実習

ら、客の心を掴むポイントなど実践向けの話をしていただいた。その後は木造塾スタッフにより手書きパースの実践講座を行った。

【第5回】松本昌義先生を講師に迎え、「架構グリットを意識した間取りと美しい外観を提案する」と題して、居室、水廻り、収納など「各スペースの要点」と、小屋架構、2階床架構と間取りの整合など「構造と間取りについて」の講義が行われた。また、第2回の課題として出されていた住宅の計画について講評をいただいた。

【第6回】「木材加工の現場実習」の第2回目として、木造塾スタッフである久慈支部菊池均氏の大字町にある作業場において実施され

た。今回は参加者が実際に木材を使用し「腰掛鎌継ぎ目違い付」の墨付けから刻み加工までの手順を、差し金、のこぎり、のみ等を使用して挑戦した。

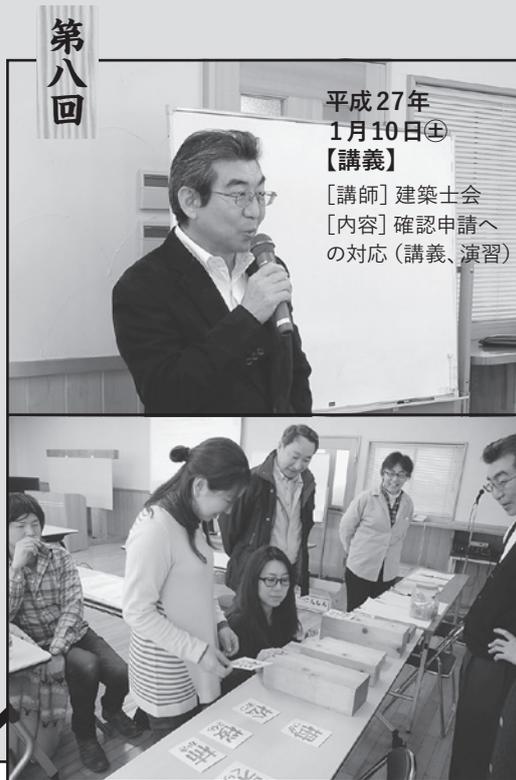
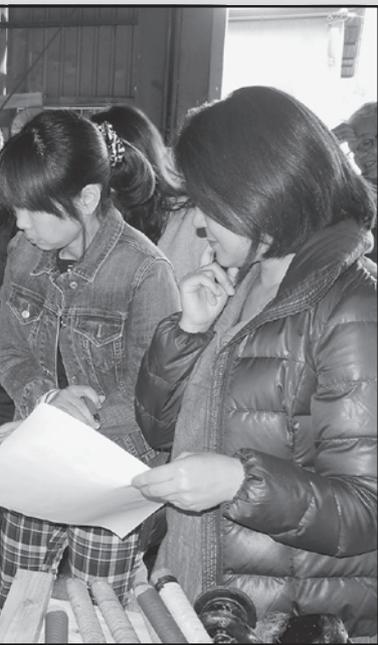
【第7回】松本昌義先生による講義。「架構グリットを意識した間取りと美しい外観を提案する」の第2回目として小屋伏図、2階床伏図の描き方、継手、仕口の基礎知識などについての講義が行われた。

【第8回】は実務的な講義内容として、木造塾スタッフであるひたちなか支部川又晴彦氏により、木造軸組構法住宅の構造計画、壁量計算、算定式を用いた計算法(N値計算法)等の実例を用いた講義が行われた。また、休憩時間には木

材の材種当てクイズ等も行われた。

【第9回】松本昌義先生による最終講義は、木材の基礎知識、建具デザインの基礎知識など松本先生が実際に設計された実例に基づき設計上の重要な点、また、パートⅡに向けての計算による架構部材の断面の決め方など応用編に繋がる講義が行われた。

【第10回】最終回は建築家鈴木久子先生(ATELIERゆう代表)による「私の建築の原点・思いをかたちにする」と題した講話が行われた。「住宅建築」にも紹介された「秩父の山の木で建てる伝統構法の家」などの実例を交えながら、建築の取り組みについて話をいただいた。



12月13日 ⊕ 【講義】

【講師】松本 昌義氏
【内容】前半：構造と間取り② 小屋、2階床架構のパターン、部材断面の目安、下屋の取り付け方/後半：継手、仕口の基礎知識

第七回

2月14日 ⊕ 【講義】

【講師】松本 昌義氏
【内容】前半：木材の基礎知識—木材の特性、値段、乾燥等/後半：建具デザイン基礎知識、または計算による梁部材断面の求め方

第九回

3月14日 ⊕ 【講話】

【内容】講話：建築家 鈴木久子氏の話/閉講式

**いばらき
木造塾**

「再築大賞 最優秀賞」

— 行方支部の古谷野勝次氏が受賞！



住まい教育推進協会主催の「再築大賞」で最優秀賞を受賞した古谷野氏。家と家族の歴史を継承する作業への想いと後継者不足への危機感を率直に語ります。

『継承』

— 上棟明治16年
家・家族の歴史を未来へ

古谷野 勝次

古谷野建築設計事務所／二代目現場棟梁

北浦湖畔を目の前にして佇む潮来市の濱野家。明治16年(1883年)の上棟から130年の年月の中で二つの大震災に耐え、家族を護ったこの住まい。昭和期に行われた大改修によって、曲がり屋で茅葺き仕上の屋根から現在の形状に変わり、間取りも一部変更、屋根も土葺きへと変更されていました。しかし、創建から一世紀以上の年月に

よる経年変化と、先の東日本大震災でなんとか持ちこたえたものの、全体的に調べるとやはり被災しており、建物四隅すべて傾斜方向が異なり、奥座敷は最大沈下85ミリの不同沈下という状況でした。

建築士である当主も設計に携わる

濱野家当主(13代目)は、家族から「母屋はどうするの?」との声が出るなか、建物の130年の歴史に幕を下ろすべきかどうか、たいぶ逡巡されたようです。

「これまで家族を護り続け、先祖の思いも残るこの住まいを子供たちになんとか残したい」

当主が修復再生を強い想いで決断され、私に工事を託されたときには、震災発生から2年5ヵ月の月日が流れていました。

調査のため現地に赴き、内部・外部の調査が終わると、当主から「自分も設計者として携わる」との言葉が。建築士の資格を持つ当主ご本人の強い意向で間取りを計画していただき、その平面図をもとに、板図、原寸図(施工図)等を作成、組み換え部材の墨付け、刻み、躯体の補強、各部修復へと移行しました。

外部仕上げは、窯業系サイディング等で躯体を隠してしまうのではなく、建物本来の価値を残すため、筋子下見板張り+漆喰仕上げとしました。窓は機能性を考慮しアルミサッシで断熱等を確保しながらも戸袋は制作戸袋で仕上げ、無機質なアルミの質感は隠し、伝統の風合いを色濃く仕上げています。

内部は、今までと大きく間取りが変わる中でも、和室通し間は残し(床の間和室は全組み換え)、仏間

「再築大賞」最優秀賞 林野庁長官賞

【講評】本作品は明治16年に建てられた古民家を次世代へ継承しようと施主と設計者と施工者が一体となって取り組んだ再築工事であり、すべてを新しくするのではなく、柱に貼られた娘さんが子どもの頃に貼ったシールをそのまま残し、また欄間なども照明に再利用したりをしながら、かつ水回りなどは快適に生活ができるように改修されており、古民家の良さを残しながら暮らしやすい住環境を提供しています。また、施工にあたり板図の作成や原寸図の作成など施工者の技術の育成にも取り組んでおり、住まいを継承することと併せ、伝統や技術の継承にも積極的に取り組む姿勢を高く評価し受賞いたしました。

また、国産木材の使用状況についても新規で納入した材木の8割以上が国産木材で、設計者自身も地元木材の活用的重要性や耐久性の高さについても理解をしており、且つ建物に使用されていた古材も積極的に再活用しており二酸化炭素排出削減効果も高いと評価させていただきました。

設計	古谷野建築設計事務所
施工	古谷野建築
所在地	茨城県潮来市
構造	伝統構法
階数	平屋
延床面積	改修前 184.18㎡ 改修後 190.61㎡ (7Kから6LDKに改修)
築年数	131年
家族構成	60代祖母と、40代ご夫婦、 20代10代の子供達

は創建当時のままの状態とし、仏間照明には手作り照明を設置。傘には、以前使用されていた欄間の組子を使い、建物内に還して残しました。

入替を行った新規納入材も、上棟当時までとはいかずとも、できる限り地場材(茨城県産材+国産材)を使用。躯体補強、組替の部等の加工はプレカットではなく、すべて手刻み加工で行い、材一本一本の癖を生かした組み方で適材適所に振り分け。間取りは大幅に変更しながらも、内外意匠は以前に増して創建当時の面影を反映させました。

建築を請け負った明治期(創建時)の大工棟梁の仕事、昭和期の大改修を請け負った大工棟梁の仕事、両者までとはいかずとも、今回の平成の大改修でもできる限り伝統構法を崩さず護り、再生を目指

しました。各年代の名棟梁と仕事を通して会話できたような思いです。

補強を含めた技術的に難易度の高い今回の修復再生工事に理解を示し全面的に協力して下さった当主の想い、並びに長丁場の工事を支えてくれた左官、板金、建具、瓦等の職人の技術力の高さ、すべてが一つになり未来への「継承」が実現しました。自分たち建築士や大工だけでは決してなしえませんでした。

後継者の育成は急務 残したくても残せなくなる

古より大工職人たちが培ってきた100年以上耐えうる住まいの造り方、「伝統構法」。解体したものは二度と元へ戻すことができないのです。そのことをこの家は教えています。今では少数になってしまっ

たものの一世紀を超えてなおも耐える伝統の技を継承している現代の名工達と、来るものを温かく包み引継がれた日本の建築美。解体し、産業廃棄物になってしまう前にぜひもう一度見つめ直してください。

修復再生工事を行うたびに思うことは、伝統の建物を後世に残すために、真に伝統の木造建築物を理解した設計者、並びに平面図だけを元に原寸図、型板を作り出し形にできる技術者(大工職人)の後継者育成が急務だということ。今育成しなければ、建物を残したくとも、残せる設計者、技術者がいなくなります。未来へ日本建築の伝統を継承するためにも、土地の良質な材、それを生かす現代の名工たちの仕事を見直すべき時代です。建築に携わる方だけでなく、一般の方にも一人でも多く伝えることを切に願います。

常陸太田市立峰山中学校

周囲の豊かな自然環境と呼应しながら
有機的に連携し伸びやかに機能する教育空間。



学習センター

計画地は、JR常陸太田駅より南東約2kmの所に位置しています。

常陸太田市最南部の平坦な地形で豊かな田園が広がる場所であり、周辺には四季折々の表情を見せる「峰山」や、久慈川支流の「里川」があり、豊かな自然環境を有しています。

この地が持つ豊かな自然環境を背景に、穏やかでぬくもりのある学校づくりと、機能性を重視した計画としました。

1. 魅力的な外部空間を持つ学校

周囲の家並みや自然の佇まいに調和するように2階建ての低層の建物としました。また、エントランス周りにゆとりある空間を創り出し、校舎周囲には緑豊かな「エントランス広場」や、校舎と連携した地域交流広場など魅力的な外部空間

を創出しました。

2. 学習センターを核とする学校

生徒一人一人が自ら学ぶ力を育成するために、図書の閲覧や自習、情報探求などの機能を満たす「学習センター」を学校の中心として位置づけています。

これにより、普通教室との連携や特別教室、管理部門などとの有機的なつながりによる多様な学習環境となっています。また、授業以外でも学習を通じたコミュニケーションの核として機能させています。

3. 多様な学習空間を持つ学校

生徒の生活の場である普通教室ゾーンを学年ごとに1フロアに集約し、普通教室の学年ごとのまとまり「学年ユニット」を形成すること

によって、一斉授業やグループ学習、チームティーチングなど多様な学習形態を可能としました。

「学年ユニット」から「学習センター」に直接アクセスできる階段を設け、普通教室と特別教室との連携に配慮することで、「学年ユニット」・「学習センター」・「教科ユニット」は、互いに独立しつつも有機的に連携する空間とすることにより、多様な学習環境となっています。

校舎南側の「みんなのテラス」は、内部と外部の一体利用等で屋外実習の舞台となり、地場産材で構成された「ライトコート」は、学習・生活環境を屋外に展開することが可能となります。

4. 自然力を活用し

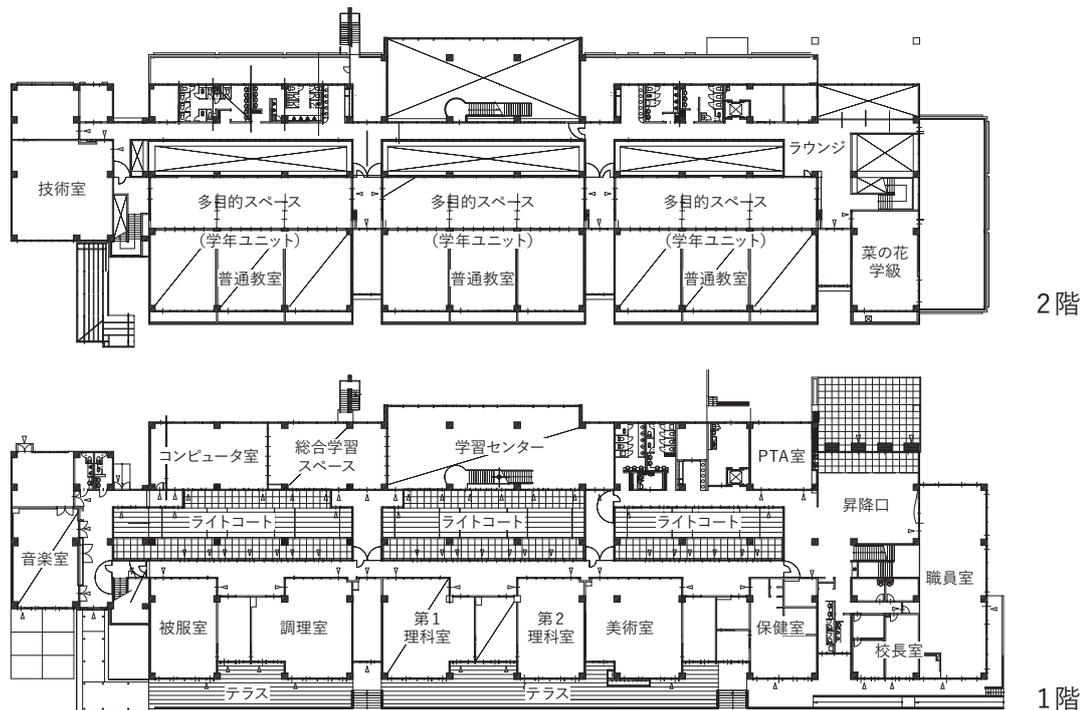
自然と融合する学校

校舎全体に自然の風や光を積

常陸太田市立峰山中学校

所在地 茨城県常陸太田市
設計 株式会社横須賀満夫建築設計事務所

建築面積 3,147.74㎡
延床面積 4,886.80㎡
主体構造 RC構造 地上2階



極的に取り入れ、照明や空調設備の使用を可能な限り縮減しました。

「学年ユニット」及び「教科ユニット」は南面配置による健康的で居心地のよい教育空間としています。

建物中央の「ライトコート」は、光や風を取り込む環境装置です。「ライトコート」には、地場産の大理石をふんだんに使用することで、明るく爽やかな空間となっています。また、校舎内部の内装材には地場産の杉を積極的に使用し、ぬくもりのある空間としました。

5. 安全・防犯対策を考慮した学校

正門及びグラウンドが見渡せる位置に職員室を配置することで、教師が生徒の安全を見守りやすくなりました。

また、2階に上がる階段を職員室に近接して設置することにより、

生徒にとっても教師にとっても効率的な動線になっています。

6. 末永く利用できる学校

教育方針の変化や改修等にも柔軟に対応できるように、構造躯体、内装材、設備配管を分離したスケルトン・インフィル (SI) の思想を取り入れています。間仕切り壁を可能な限り乾式で構成しました。

バルコニー、軒、庇によって外壁の保護やガラス清掃を容易にし、設備配管 (メイン配管) を集約し、維持管理と改修のしやすさにも配慮しました。

7. 合理的な土地利用を図る学校

グラウンドの広さと機能性の保持、既存屋内運動場と校舎とのネットワークを配慮した位置に新校舎を建設してあります。これに

よって、造成工事費やグラウンド整備費の削減ができ、仮設校舎を用いずに既存校舎を使用しながらの工事を行うことにより、合理的な建替え計画が実現しました。



東側から見た外観

士会会員として長きにわたり活躍されてきた先輩方を訪問し、お話を伺うコーナー。第26回となる今回は、県庁支部の滑川 浩一氏と、県央支部の荒川 芳和氏を訪問し話を伺いました。
聞き手＝情報・広報委員会



「建築士の社会的地位の向上につながる活動に期待」

滑川 浩一 氏（県庁支部）

昭和18年生まれ／昭和46年入会／会員歴44年

北茨城市生まれ。昭和41年に茨城県職員となり、住宅課、営繕課、建築指導課、茨城県庁舎建設局等に在籍。県庁舎建設局では3年間にわたり新庁舎の建設工事に関わった。県庁を退職後は、茨城住宅管理協会を経て、現在は株式会社竹中工務店茨城営業所に勤務。堅実な仕事ぶりに信頼が厚い先輩会員。

——県庁時代に印象に残る仕事は？

新県庁舎の建設工事は印象深いですね。これまでに経験したことがない大型建築物の工事で、多

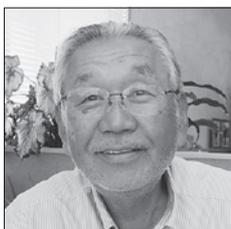
くの貴重な経験をすることができました。

——会の活動として印象に残ることは？

竜ヶ崎土木事務所時代の、北相馬・稲敷支部での交流が良い思い出です。支部の旅行などで、建築士や大工、建設会社の社員などさまざまな立場の会員と率直な話ができました。

——後輩にメッセージをお願いします。

建築士の社会的地位や認識の向上につながる活動を期待します。個人の行動も大事ですが、建築士会という組織としての行動がより大きな効果につながると思います。



「緑化推進事業への継続した取り組みに感服します」

荒川 芳和 氏（県央支部）

昭和22年生まれ／昭和62年入会／会員歴28年

明治45年に創業、103年の歴史を持つ建設会社の4代目代表取締役を務める。特に情報処理の技術に詳しく、建築士会県央支部常務理事として総務関係の相談役として活躍する。本業の傍ら「祭事」への造詣の深さでも知られ、県内を初め周辺県の祭り情報と会員同士の親睦をはかる会「いばらきの祭りを研究する会」の顧問も務める。体が大きく一見強面な印象だが、じつは大人にも子供にもたいへんやさしく頼りになる先輩会員。

——会の活動として印象に残ることは？

苗木配布などの緑化推進事業です。地球規模とも

いえる取り組みを毎年行っていることに感服します。私がいいただいた5本も順調に育っています。

——地域の祭りの保存にも尽力されていますね。

地元堀原小学校で毎年8月の最終日曜日に開催される「堀原火の国まつり」は、私たちの発案で1990年に始まり、今年で25年目を迎えます。古代に水戸の地を開発した最初の指導者で九州の豪族、建借間命（たけかしまのみこと）の時代に想いを馳せ、古代衣装を纏った地元の子どもたちが祭りを担い、大人も参加する地域の祭りとして定着しています。夏の夜空にかがり火が灯される幻想的な祭りを、皆さんもぜひご覧になってください。

ようこそフレッシュマン! Welcome Freshmen!

建築士会に新たに入会された
会員の方々を紹介する新コーナー。
今号では3名の皆さんをご紹介します!



井坂 陽子さん
[県央支部]

平成26年入会
㈱ヤマト建築設計事務所

「心地よい空間創りを目指して」

このたび友人の勧めで入会しました。これまでも何度か建築士会の行事や講演会に参加させていただいていましたが、今後は会員としてさらに積極的に参加していければと思っています。

仕事では「利用する人が心地よ

いと感じる空間創り」を心がけていきたいと思っています。業務に生かせるような見学会や講習会などに参加できることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。



清水 智之さん
[県庁支部]

平成27年入会
茨城県庁

「まちの活性化に関わっていきたい」

今年の4月に入会しました。大先輩の皆さま方と交流することで知識・経験を重ねていければと思います。とくにワークショップなど地域住民の方々と協力して行える行事に参加することを楽しみにしています。茨城県内に、住みや

すく自慢できるまちが一つでも増えていこう、建築士会のまちづくりの行事に参加し、まちの魅力、問題点などを自分の肌で感じ取り、まちの活性化の手助けが少しでもできればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



樋田 康子さん
[久慈支部]

平成26年入会
樋田建築

「信念を持って挑戦を続けます!」

樋田建築に嫁いってから建築業に携わり、主婦業や事務などをしながら数十年間過ごしてきました。各種の手続きを自分でできるようになればと、建築士の資格取得を志し、平成26年2月に免許証を受け取りました。建築士会の講座や研修旅行は視野を広げる良

い機会となっています。木造建築の奥深さと魅力も教えてもらいました。年齢で諦めることなく、いつかは自分の設計で家を建てることを目標に、信念を持って挑戦を続けていこうと思います。よろしくお願いいたします。

バーチャル空間での3次元建物モデルが業務を効率化。 「建築設計業務におけるBIMに関する講習会」開催。



平成27年2月6日(金)に「建築設計業務におけるBIMに関する講習会」を開催しました。

BIMとは、Building Information Modelingの略称で、建築設計業務においては、従来の設計図書の作成とは異なりコンピューター上のバーチャルな空間で「3次元建物モデル」を作成する建築手法を指します。意匠・構造・設備の仕様・形状・位置・大きさなどの情報を同一の3次元モデルで作成することにより、図面間の錯誤や不整合や各専門分野間のコミュニケーション不足をなくし、業務の効率化を図ることができます。また3次元建物モデルをつくることで、施工や維持管理においても有効に利用できる建物データベースとしても活用できます。

講習会ではまず、日本建築士会連合会情報部会長の(有)アーキ・

キューブ一級建築士事務所代表、大石佳知氏をお迎えし、BIMの目的と長所を実際の活用体験を元にお話いただきました。

具体的な実施設計において、変更によって生じる図面の修正漏れがなくなり効率化が図れていることや、木造軸組の納まりの検討を立体的に行えることなどの長所を知ることができました。

一方で、設計の進捗状況がBIM作成者以外にはわかりにくいため、管理の仕方を検討することが必要であるとのことでした。

その後BIMによる設計を支援するCADアプリケーションのベンダー3社によるプレゼンテーションがありました。CADによる3次元設計の実例とそれぞれのCADの特徴を知ることができました。

今回の講習会で、BIMにより設

計環境が改善されることや有用な建物のデータベースとして施工や維持管理に活かせることなどがわかり、BIMによる建物生産に向かう流れを痛感いたしました。

受講された方々も、BIMによる設計手法にたいへん興味を持たれた様子で、受講後も熱心に講師の先生や各ベンダーの担当者に質問をする姿が見られました。



連合会情報部会長の(有)大石佳知氏



今年も皆さんの力作が揃いました！

第18回会員美術展

平成27年2月19日(木)～2月26日(木) 水戸市見和図書館ギャラリー



恒例の「会員作品展」が、水戸市見和図書館ギャラリーにおいて、2月19日から26日までの8日間開催されました。

例年のことながら、趣味の世界とはいえないような女人はだしの作品も多数出展されました。

「日展に出展されてもおかしくないような力作で、見ごたえがあるわ」「シンプルだけど素晴らしい作品ね」「繊細で創りあげるのにずい

ぶん時間がかかったろうね」などなど…。会場にいらした方たちの感嘆の声です。

この作品展がきっかけとなって、毎年多くの地域の方に建築士会の存在を知っていただけること、また、会員同士においても、趣味の分野での活動を紹介することで仲間の意外な一面を垣間見る楽しさを味わっていただける機会となることを期待して実施しています。

27年度は県立図書館で開催します。ぜひこの機会に皆さまの仕事以外の楽しみを披露してみませんか。「展示するにはまだまだかな…」などと考えている方、来年はぜひ参加してください。私はこの作品展を通して毎年少しでも上達できればと願いつつ、参加しています。

全国のまちづくり活動事例の数々に 建築士会のさらなる可能性を感じた日。—「平成26年度全国まちづくり会議」に参加して



日 本建築士会連合会が主催する「全国まちづくり会議」が、2月6日(金)～2月7日(土)に笹川記念会館(東京都港区三田)で開催され、全国各地より75名が出席。茨城県建築士会からは、まちづくり委員会より梶ひろみ委員長、杉田次夫副委員長と私の三人で参加しました。

今年度のテーマは「地域と連携する建築士会のまちづくり活動」ということで、中心市街地の活性化、空き家対策の取り組み、歴史的建造物の掘り起しによる地域活性化、ヘリテージマネージャーや景観整備の活動などについて、新潟県・京都府・奈良県・宮崎県の各建築士会より事例が発表され、いかにして建築士がまちづくり活動に関わっていくのか、活発な議論が交わされました。

特に、茨城県建築士会と同様に「景観整備機構」の指定を受けている宮崎県建築士会からの報告は、行政からの委託業務として約2400万円で案内看板を設置、町家再生ワークショップを開催してその再生案を具体化する、物産館の改修工事などを行うなどの活動事例が発表され、景観整備機構としての建築士会の潜在能力が窺えるものでした。「県建築士会」と「支部活動」が一体的に連携した結果が宮崎県の活発な活動の原動力となったのではないのでしょうか。

「建築士が活動するフィールドは広く、その職域の可能性を開花させることが建築士会の役割の一つである」というのが、今回の会議に初参加しての感想です。



全国から集結した建築士たちが、自らのまちづくり活動の事例を紹介しながら、未来を見据えて熱い議論を展開した。



笹川記念会館付近からの東京タワーを見ながら帰途に。



二級建築士免許証明書交付式を開催。 新建築士に向け「トークセッション」も実施。



柴会長より免許証明書を受け取る高橋佳孝氏

平成27年2月18日(水)、茨城県庁9階講堂にて、茨城県建築士会主催による「平成26年度二級建築士免許証明書交付式」が開催されました。26年度の茨城県における二級建築士合格者は109名、会場にはうち74名の合格者が出席し、免許証明書の交付を受けました。

式典では、柴和伸会長が主催者あいさつとして合格者へのお祝いの言葉と、「建築士資格の持つ権限と責任、今後の知識の習得とさらなる挑戦」について述べられました。

県土木部都市局建築士指導課の江原秀明技監兼指導課長は、「多様化した時代における建築士の使命、法令の順守、快適なまちづくりに向けて誇りを持ち取り組んでほしい」と述べられました。

免許証明書の交付では、合格者を代表して高橋佳孝さんが柴会長から免許証を受け取りました。

その後、合格者に向けて「建築

士の役割と責務及び建築士法」「応急危険度判定士」「建築士免許等の各種手続き」に関する説明が行われ、続いて飯島洋省青年委員会委員長が、「建築士および建築士会の活動」と題し、建築士会の日々の活動、委員会活動、支部活動など建築士会の活動報告とPRを行いました。

引き続き合格者全員への免許交付が行われ、休憩の後、新規登録者セミナーが開催されました。これは、青年女性委員会により企画された合格者向けのイベントで、建築確認業務に携わる講師による「建築確

認とは何か」についての講演と、建築士会に所属しさまざまな職業に就く方々11名を迎え、活動、出会い、思い出などをトークセッションの形式で話していただき、建築士会をより身近に感じてもらう機会をつくる目的で実施しました。

13時から始まった式典は16時30分に終了し、26年度の免許交付式も無事幕を閉じました。当日は数名の建築士会への入会申し込みもあり、活動のPRやセミナーへの手応えを感じる部分もありました。また、次回に向けての課題も見つかри、来年度へ生かしていこうと考えています。



11名による「トークセッション 建築士スタイル」

「全国女性建築士連絡協議会」に参加して。 各県女性建築士たちとの刺激に満ちた2日間。



「平成26年度第24回全国女性建築士連絡協議会」が、2月27日(金)・28日(土)に東京の建築会館において開催され、茨城からは9名で参加してきました。

1日目の全体会では、コミュニティの専門家である荒昌史氏から、「ネイバーフッドデザイン～東日本大震災から学ぶ“よき避難者”を育成する防災減災～」と題した基調講演がありました。この講演では、コミュ

ニティの重要性を再認識し、災害時にハードとソフトの両面から防災に取り組むことの必要性を学びました。継続して行っている被災地における現状報告と取り組みでは、4県の発表がありました。

2日目は、8つの分科会の中から、「集まって住む」に参加いたしました。さまざまな生活背景や人生をもつ多様な人々が自分らしく「集まって住む」まちづくりの実践事例を聞か

せていただき、各グループ毎にメリットや問題点、やってみたいことなど、ワールドカフェスタイルで活発な話し合いが行われました。

各県の女性建築士たちの活動報告を聞かせていただき、とても刺激的な2日間となりました。本県においても、異業種の専門家や地域団体、行政等と協働しながら、継続的なテーマを見つけ、地域に根付いた活動を実践したいと思います。

安心とくつろぎをお届けする
有限会社 亜細亜警備保障
〈施設、イベント、駐車場、巡回、交通誘導〉

代表取締役
尾崎 嗣 朗

本 社 那珂郡東海村舟石川845-4
〒319-1111 TEL 029-282-7056(代)
FAX 029-282-7017
E-mail: asia_keibi-bajien@eos.ocn.ne.jp



「わくわくセミナー」 地図や地名からたどる土地の生い立ちのロマン。



平成27年2月に、土浦三中地区公民館にて、国土地理院の新藤昭彦氏を講師に迎えて行われたわくわくセミナーは、地図などから土地の変遷を調べる内容となつた大変興味深い内容となりました。

国土地理院の地理院地図などを活用し、地図上で現在から過去にさかのぼり、その土地の変化をこんなにも簡単に調べることができるのかと、とても楽しくなりました。

日本の中で、地図に記載のある地域であれば地形分類や治水地形、沿岸海域、活断層、火山等々、身近な地域に重ね合わせて調べることができるので、セミナーの後自宅にもどった私は、忘れないうちに地図ばかり見ていました。

また、地名や使われている漢字から、その土地の生い立ちをある程度推測できることもあるのだと知り、大事なことだと思いました。

今後の仕事へ活用することはもちろんですが、日々の暮らしや知識に役立つ内容も取り入れているわくわくセミナーは、新たな発見をすることができる貴重な場と思っています。会員の皆様の要望も取り入れて企画されていますので、知りたいこと、学びたいことなど、ぜひお寄せいただきたいと思います。

茨城県ガス協会

W発電



が、スマート!



大地の恵み「天然ガス」と天の恵み「太陽光発電」を活かした

ENE・FARM × 太陽光発電

「エネファーム」と「太陽光発電」の組み合わせで一段と環境性を高めます。さらに「エネファーム」で作った電気を優先使用するので、太陽光発電の売電量がアップします。

経済性 W発電によるお得な光熱費

環境性 太陽光と天然ガスのクリーンハーモニ-

筑波学園ガス株式会社 リビング開発グループ
〒305-0817 つくば市研究学園2-1-2 tel.029-848-5151

東京ガス株式会社 常総支社
〒301-0004 龍ヶ崎市馴馬町2517 tel.0297-62-2807

東京ガス株式会社 日立支社
〒317-0073 日立市幸町1-22-2 tel.0294-22-4131

東日本ガス株式会社 ハウジング課
〒302-0011 取手市井野32 tel.0297-72-3165

東部ガス株式会社 茨城支社
〒310-0015 水戸市宮町2-8-14 tel.029-231-2241

東部ガス株式会社 茨城南支社
〒300-0035 土浦市有明町2-49 tel.029-821-1107

東部ガス株式会社 茨城南支社 守谷事業所
〒302-0115 守谷市中央1-8-4 tel.0297-48-1354

美浦ガス株式会社 営業課
〒300-0425 稲敷郡美浦村興津1299 tel.029-885-1221

普段目にする事のできない場所を訪ねる「探訪」シリーズ。 今回は東海村の3施設へ。



東海第二発電所（テラパーク前）にて



J-PARK 施設内部



東海中学校

平成27年2月28日(土)に、ひたちなか支部及び茨城県建築士会県北ブロック協議会主催による「東海地区探訪」が行われました。毎年恒例となったこの事業は、ひたちなか支部管内の各地域を順次めぐり、普段なかなか目にする事のできない場所や入れない所などを「探検」するものです。今回は、建築士会会員でもある東海村役場職員の方のご尽力により、東海第二発電所、東海中学校、J-PARKの3ヵ所を見学することができました。

まず東海第二発電所では、日本原子力発電(株)のご担当者より説明

を受けた後、原子力施設内を見学。日本初の原子力発電所であった東海第一発電所の廃炉に向けた解体工事の進捗状況や東日本大震災での津波到達位置、また災害時における非常電源確保方法などを聞くことができました。

次に東海中学校です。(株)久米設計の設計で、昨年12月に竣工したばかりです。構造規模は鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)地上4階建てで、エレベーターも2基設置されています。機能的な配置と動線計画により構成されていますが、なんととっても印象的だったのが1階から4階まで一直線に伸びる中央

階段で、これは圧巻でした。

最後は、J-PARK(大強度陽子加速器施設)です。ここは素粒子物理、原子核物理、物質科学、生命科学、原子力など幅広い分野の最先端研究を行うための陽子加速器群と実験施設群であるという説明を受けましたが、率直に言って、私の頭では理解不能でした(笑)。その中でも、ニュートリノとかスーパーカミオカンデなどの言葉は有名ですので、わかったような顔をして帰ってまいりました。

来年は、ひたちなか市に場所を移し「ひたちなか地区探訪」です。お楽しみに。



皆が一丸となり、石岡支部活動充実の日々。

— 研修視察と支部ホームページ作成についての報告



翁島別邸にて

**栃木市・足利市に
オンリーワンのまちづくりを学ぶ。**

石岡支部では、平成27年3月8日(日)に、栃木市・足利市の研修視察を行いました。

まず初めに栃木市にある下野国の国衙(律令時代に置かれていた国の役所)跡地の整備状況を見学しました。当日は小雨のなか「国庁まつり」が行われていて、大勢の人で賑わっていました。下野国の国衙跡には、国庁前殿を当時の姿で復元した建物が建てられています。また、隣接の資料館には奈良時代の国衙の全景模型や復元建物の建舞の様子を記録したビデオなどもありました。次に、栃木市の伝統的建造物群保存地区の岡田記念館、翁島別邸を訪問。1枚1億円ともいわれている廊下のケヤキ1枚板など、説明を聞きながら見学。昼食は旧足利銀行をリメイクしたレストランでおいしいハンバーグをいただきました。

午後は蔵のまち並みを散策し、

足利市へ向かいました。日本で最古の大学といわれている足利学校、平成25年に国宝になった饗阿寺(ばんなじ)を見学してきました。ちなみに茨城県には国宝の建物はありません。足利学校、饗阿寺とも周りの空気が凛として、他のところとは違う荘厳な雰囲気を醸していました。

栃木市も足利市も、先人達の残した物を大切に保存しようと努力している姿が見えます。先人達の営みを大切にし、尊敬の念を忘れず、次の世代に繋いで行くことが重要です。自分の住んでいる街を誇りに思い、愛着を持ち、好きになることが、まちづくりの原点であると思います。街の辿った歴史は、街の個性でもあります。今回の研修を参考に、建築士として、オンリーワンのまちづくりを目指して活動したいと思いつつ、楽しい視察してきました。来年も面白く、ためになる企画を考えております。楽しみに待っててください。(島田)

**支部の皆で力を合わせ、
ホームページが完成。**

私ども石岡支部の総務委員会では、平成26年度内の支部ホームページの立上げを目指し、毎月委員の皆で夜遅くまで打合わせ、作成作業を行ってきました。年度内の最終委員会議では、トップページ用の夜間写真を、懐中電灯片手に参加者皆で協力し合いながら撮影しました。その成果が実り、良い思い出とともにホームページを完成させることができました。支部の各委員会の皆さまには原稿や写真の提供、ご協力をいただきありがとうございました。公開は、5月頃の予定で進めています。(三輪)



ついに完成! 石岡支部のホームページ

立場は違えど、よいものを目指す心は同じ。 行政職員の皆さんも大いに参加を！ — 高萩支部フレッシュマンの活動報告



左) 新婚旅行を兼ねた、思い出深い「しまね大会」
右) 「ふくしま大会」にも参加
下) 高萩市産業祭での苗木配付活動



高萩支部の石川です。新入会員によるフレッシュな活動報告を、という依頼を受けましたが、それほどフレッシュではありません(笑)。

私は行政職員であるため、これまで建築士会の活動は控えてきたのですが、震災時に支部の方たちに業務で大変お世話になったこともあって、支部の理事を引き受け、以来、会の活動にはできるだけ参加するように考えを切り替えました。

総会をはじめ、支部の研修会や市産業祭での苗木配付、青年女性委員会のセミナーにも参加しましたし、ここ数年は全国大会(茨城、島根、福島)にも続けて参加しています。

特に「しまね大会」では妻とともに新婚旅行を兼ねて参加したので、非常に思い出深いものになりました。今まで職務上の接点しかなかった



会員の方たちと研修会などで知り合い、交流できたのはとても良かったですし、これからも活動を通して多くの会員の方と交流ができることを期待しています。

設計者という申請する側と、確認申請書の審査をする側といった立場の違いはあれど、良いモノ・安全なモノをつくるという目的は同じです。まだまだ未熟なため、会員の皆さまのご指導、ご助言をいただきながら、これからも精進した

いと思います。

建築士資格はあっても行政職員だからという理由で士会に入会していない若い方も数多くいらっしゃるかと思います。また、士会員でも以前の私と同じように活動を控えている方もいらっしゃるかと思います。立場を超えて入会し、活動に参加しましょう！そして、士会を通してより良いモノを目指しましょう。



ヘリテージマネージャーの視点で見た 世界遺産「日光東照宮」。

平 成26年9月13日(土)、茨城県建築士会県西協議会交流女性委員会主催の足尾銅山、日光方面見学会に参加。見学会は肌で感じることができる貴重な施設がたくさんあり、全てが糧となった一日でした。

その中でも特に興味があった日光東照宮「社寺」は、神仏習合の伽藍が残存する世界遺産の極めて貴重な歴史的建造物です。以下は私なりの所見です。

日光の社寺は国の史跡指定面積50.8haに及ぶ広大な敷地の中にある。遠近法を駆使した自然石の階段を昇ると、黒田筑前守長政公が1617年に寄進した明神鳥居、額東に後水尾天皇宸筆の扁額の掛かった高さ9mの結界への石鳥居を潜り、幽玄の神域へと第一歩を踏み入れる。

境内に入り左手奥の木立の中に、慶安3年(1650年)創建、初代若狭小浜藩士酒井忠勝公寄進の五重の塔がそびえていたが、文化12年(1815年)落雷により焼失。現存するのは、若狭藩御用達の大工棟梁大久保喜平により、高さ36mの江戸時代発案の懸垂式工法(時を経て重みで塔芯が縮んだ際にも、芯柱が五重の屋根を突き抜けてしまわないように発案された)により文政元年(1818年)10代若狭小浜藩士酒井忠進公が再建したもの。懸垂式工法は、東京スカイツリー制震システムにも応用されるなど、その技術の粋が現在にも活かされている。

陽明門に拝礼し、日光東照宮で最重



写真上から：石鳥居、唐門と左右の透塀、鑄抜門、中神庫と下神庫、奥宮御宝塔

要な本社の正門唐門に至る。さすが唐門とあって張間≒2m、桁行≒3mの本社に向かって左右の柱には、胡粉の白地に紫檀や黒檀などで寄木細工を施した昇り龍・降り龍を配し、正面右側柱に接

する透塀の破風尻には、日本航空のロゴマークのモデルになった鶴が配されている。唐門の彫刻数611、人物の彫刻6体64人の中央に、どこことなく家康公に似た「舜帝朝見の儀」の透彫りがある。これは、一説に徳川幕府の目指す舜帝治世を表しているという解釈もある。

目を正面唐破風の屋根に転じると、4本の足に金の嵌め輪で繋がれた唐獅子の一種、霊獣「恙(つつが)」。

東照宮の金銀財宝を守る神獣恙は虎より凶暴な生き物で、足を抑えておく必要があったといわれる。恙に加え左右の屋根には飛龍が、翼(鱗)を切って飛んでいかないように、屋を守る神獣として睨みをきかせているが、足に嵌め輪はない。

息を切らし鑄抜き門を仰ぎ奥宮御宝塔に至る。久能山は(神君徳川家康公の)御廟であり、日光は(東照大権現を唯一盛大に祀った)お宮で、神枢には遺骸が存在するのか?…静岡・日光両市民やマスコミを含め勧請論争渦中である。しかしながら、260年の長きにわたり泰平の世の礎となった神君は神君として、今はそっとしておきたいと願う。いつの世か結論が出たとしても、日光が世界遺産の一つとして価値ある歴史的建造物であることは相違ない事実だから!!

雨。

その一滴が、
建物に大敵。

- 業務案内
- 一般建築、中高層ビルに関する防水全般
 - 雨漏り、水漏れ調査及び施行
 - 外壁吹付工事（割れ補修）
 - 各種工事に関するメンテナンス

植田防水工業株式会社

本社：水戸市八幡町10-71 TEL 029 (227) 4181 FAX 029 (225) 3201
<http://www.uedabousui.com>

建築設計事務所

K 菊池設計工房

一級建築士
一級建築施工管理技士

TSUMORU

主 宰 菊 池 積

〒317-0061 日立市東町2-1-10
TEL・FAX 0294(21)0223

空間
創造
調和

設計



監理

株式
会社

団建築設計事務所

代表取締役 池崎 栄二

〒310-0062 水戸市大町3丁目2番55号
TEL 029 (225) 8178・FAX 029 (225) 8195
E-mail: dan-arc.1972@nifty.com

快適な住まい造りを求めて！

内装工事

金属工事

床工事

クロス
工事

防水工事

タイル
工事

屋根工事

ALC工事

吹付工事



茨城県知事許可(般-23)1523号

株式会社 奈良屋

代表取締役社長 横山 昌弘

〒310-0852 茨城県水戸市笠原町 600-15
TEL.029-241-5141 FAX.029-305-8733
<http://www.naraya-corp.co.jp>

業務案内

- ヘーベル (旭化成)
- ベースパック (旭化成)
- アスロック (ノザワ)

株式会社 塙商事

〒319-1414 日立市日高町1丁目6番37号
TEL 0294-42-4090 FAX 0294-43-7392
E-mail: hanawa-shouji@smile.ocn.ne.jp

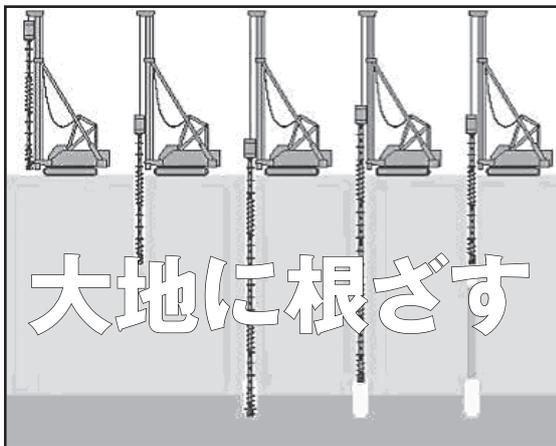
B.M. FUJITA ISO14001認証取得

株式会社 フジタ ビジネス マシンス

水戸市城南1-2-8 (常陽銀行水戸駅南支店前)

☎(029) **225-1755** (代) FAX(029) 225-1712

●お気軽にお電話下さい、営業マンがお伺いいたします。 <http://www.fujita-bm.co.jp>



前田製管株式会社

■茨城支店

茨城県水戸市平須町 1828-223 〒310-0853

TEL.029-305-3371 FAX.029-350-2163

<http://www.maeta.co.jp/>

環境に優しく
高所で未来を創る
スチール・ウッドの五キスパートナー
SIV事業部(先行手摺り300名)

MATSUMOTO-SOUKEN

株式会社 **松本総建**

代表取締役会長 **松本 一幸**

— 特定建設業 —

関東中央支店 〒311-0106 茨城県那珂市杉410-2

TEL 029-295-7715(代)

FAX 029-295-6548

本 社 〒311-4152 茨城県水戸市河和田2-9-5

営 業 所 〒319-1301 茨城県日立市十王町伊師3891-6

第一機材センター 〒311-4203 茨城県水戸市上国井町字南台3669-1

第二機材センター 〒311-0133 茨城県那珂市鴻巣白旗1195-1

第三機材センター 〒311-0106 茨城県那珂市杉410-2

《営業内容》 ■ 枠組足場工事
■ 建築土工事

■ くさび式先行手摺足場
■ 土工事

■ 鉄骨建方工事
■ 外構工事



水戸土建工業株式会社

本 社 〒310-0055 水戸市袴塚3丁目10番41号
 T E L 029-226-1562・224-1006
 F A X 029-231-2673
 Eメール mitoken@olive.ocn.ne.jp

LIXIL

株式会社 LIXIL
 LIXIL ジャパンカンパニー

北関東支社 茨城支店
 〒310-0044 茨城県水戸市西原1-1-20
 TEL 029-302-8315 FAX 029-302-8320
<http://www.lixil.co.jp/>



美しい自然を望む、やさしさと
 思いやりのアーバンリゾートホテル



水戸駅南口より徒歩3分
 婚礼・宴会・宿泊・会議など 様々なニーズにお応えします

〒310-0015 茨城県水戸市宮町1-6-1
 ●JR水戸駅(南口)下車徒歩3分 ●駐車場240台
 お問い合わせ・ご予約 029-224-2727

ホテルレイクビュー水戸



HOTEL LAKE VIEW MITO



Twitter Facebook

和知商事株式会社

ALC・杭・地盤改良・耐火被覆・金属屋根・OAフロア・パーテーション・
 太陽光発電・雨水貯留・屋上緑化・壁面緑化・インターロッキング・平板



URL <http://www.wachisyouji.co.jp>

——— 本 社 ———

〒310-0013 水戸市若宮1丁目2番7号
 TEL (029) 224-6361(代) FAX (029) 224-6504

——— つくば営業所 ———

〒305-0061 つくば市稲荷前8-1布川ビル2F
 TEL (029) 856-8660(代) FAX (029) 856-8749



Smile & Happy



安心で快適な“まちづくり”をサポート



株式会社 安心確認検査機構は、茨城県知事より指定を受けた民間確認検査機関です。
 安心なまちづくりのためには、お一人お一人の“住まい”が安全で快適でなければなりません。
 株式会社 安心確認検査機構は、地域に密着した指定確認検査機関として、確認検査業務等を通し、みなさまの“安心住宅づくり”を応援させていただきます。
 お気軽にご相談、ご利用くださいますよう、よろしくお願いいたします。

取扱業務 内容

- 建築確認検査業務
- 住宅性能評価業務
- 住宅瑕疵担保履行法検査業務
- 適合証明業務
- 長期優良住宅技術的審査業務
- 既存住宅検査業務
- 省エネ住宅ポイント対象住宅証明業務

指定・登録

指定確認検査機関茨城県知事 建指指令 第24号
 登録住宅性能評価機関 関東地方整備局長 第23号
 住宅金融支援機構適合証明検査機関

業務の区域

茨城県全域
 (本部事務所、つくば事務所 各々茨城県全域を扱います)

業務の範囲

1棟当たりの延べ面積の合計が2,000平方メートル以下、かつ、階数が5階以下の建築物に係る確認、中間検査及び完了検査



茨城県知事指定確認検査機関 株式会社 安心確認検査機構

【水戸本部事務所】 〒310-0805 茨城県水戸市中央1-8-17
 TEL 029-224-8522 FAX 029-224-8666
 E-Mail mito@ansin-k.jp

【つくば事務所】 〒305-0051 茨城県つくば市二の宮2-1-3
 クラフト二の宮ビル2階
 TEL 029-886-3155 FAX 029-886-8021
 E-Mail tsukuba@ansin-k.jp

業務時間 9:00～18:00(休日:土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始)



有限会社 クボタ建築設計事務所

(一社) 茨城県建築士会 石岡支部長

代表取締役
一級建築士 久保田 吉文

事務所 〒315-0001 石岡市石岡 3055-9
 TEL 0299-23-9305
 FAX 0299-23-9307

E-mail: ykubota@olive.ocn.ne.jp
 URL http://www3.ocn.ne.jp/~ykubota/

光商建材株式会社

〒310-0851 茨城県水戸市千波町 2353-21

TEL: 029-243-9911

FAX: 029-243-9784

金属製建具工事及び金物製作のご用命は
当社までご連絡下さい。



高橋商事株式会社

代表取締役 高橋 正光

■本社

〒311-1114 茨城県水戸市塩崎町753-1番地

TEL. (029) 269-3066(代) FAX. (029) 269-4130

■営業所 大洗インターSS

〒311-1115 茨城県水戸市大串町957-1番地

TEL. (029) 269-2135 FAX. (029) 269-5577

営業御案内

工事部

- ・上・下水道工事設計施工
- ・給排水衛生空調設備工事設計施工
- ・合併処理浄化槽工事設計施工
- ・機械器具設置工事設計施工
- ・土木・舗装工事設計施工

石油部

- ・石油製品販売
昭和シェル石油(株)販売店
- ・各種損害保険取扱
(株)損保ジャパン代理店

LPG部

- ・LP ガス販売
- ・ガス関連商品販売
- ・ガス設備工事設計施工

新発売

JIS G3321 規格品
不燃材認定 NM-8697

55%Al + 2%Mg

マグネシウム添加55%アルミ・亜鉛合金めっき

エスジーエル

表面処理めっき鋼板の最高峰

ガルバリウム鋼板®の発売から約30年。

建材用の表面処理鋼板として確かな実績を持つガルバリウム鋼板をベースに
マグネシウム (Mg) の防錆効果をプラス。

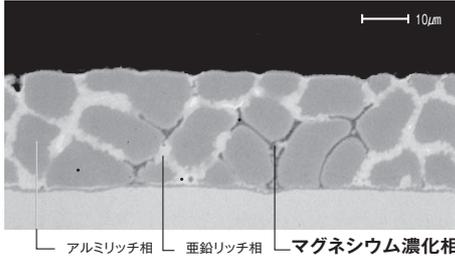
ガルバリウム鋼板の3倍超*の耐食性を実現しました。

とくに、腐食が起こりやすい切断端部や傷部などの腐食抑制効果が大きく、
厳しい腐食環境でもガルバリウム鋼板を超える耐食性を実現。

カラー鋼板の下地としても最適で、加工性も良好です。

*当社複合サイクル試験の腐食減量測定結果から推定。

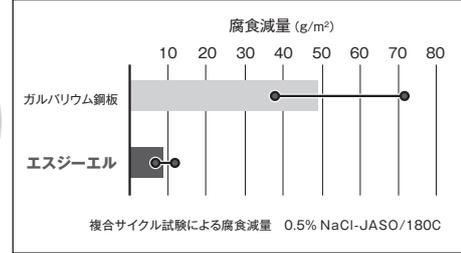
■エスジーエルのめっき構造



アルミリッチ相 亜鉛リッチ相 マグネシウム濃化相

マグネシウムは
亜鉛リッチ相と共存し、
より緻密な亜鉛酸化物皮膜を
作る効果を持ちます。

■ガルバリウム鋼板との腐食減量比較



■新日鐵住金グループ



日鉄住金鋼板株式会社

HP <http://www.nisc-s.co.jp>

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-5-6 第10中央ビル

TEL 03-6848-3730(代) FAX 03-6848-3757

担当 猿田・溝井 お気軽にお問合せください!

茨城県施工実績 **150,000 m²**
(平成26年12月現在)

樹脂無添加 しっくい 漆喰珪藻土壁 エコ・クイーン

製造元: 日本ケイソウド建材(株)

エコ・クイーンを塗ったお客様からのお喜びの声

- ❖ 湿気が無く、家の中の空気が爽やかで、梅雨どきでもジメジメすることなく、カビも生えず、結露も見られません。
- ❖ 消臭効果が高く、やわらかい空気といった感覚です。妻が長年悩まされていた喘息の発作も13年間1度も起きていません。
- ❖ 食事の後、料理の匂いが部屋に残らない。
- ❖ 花粉症で洗濯物を外に干せないのですが、部屋干しで臭いもなく乾くので助かっています。
- ❖ 子供のひどかったアトピーがほぼ完治しました。
- ❖ 冷房、暖房を殆ど使用しなくなりました。



左官・塗装・防水・リフォーム工事のパイオニア

株式会社 根子左

NEKOSA

茨城県水戸市千波町2830-5

TEL. 029(241)4057 FAX. 029(241)7071

URL <http://www.nekosa.co.jp/>

建築を息づかせるもの



HIRAI INFO-DESIGN STUDIO
Consultants in Visual Communication

建築は、

- その存在を象徴するロゴやシンボルマーク
- 空間構成の伝達や導線を担うサインシステム
- そこでの活動を効果的に伝える各種メディア

などを得ることにより息づきはじめると私たちは考えます。

「わかりやすく、魅力的に」をモットーに。

私たちの仕事は、人と建築を結びます。

有限会社

平井情報デザイン室

茨城県水戸市笠原町600-17

朝日ビル206 〒310-0852

TEL 029-291-5899 [担当: 平井]

FAX 029-305-5257

info@info-design.co.jp

Human social technologies 電気・通信・防災・セキュリティー

ミナト防災通信工業 株式会社

～ Minato Bousai Co.Ltd. SINCE 1974 ～

茨城・東京・神奈川

www.minatobousai.co.jp

地下につくる水空間。

プラスチック貯留材 クロスウェーブ

クロスウェーブは雨水の有効利用を提案します。

流出抑制 開発事業にともなう流出抑制調整池

区画整理や造成などの開発事業にともない、地下調整池の施工に活用し、雨水をその土地内で流出抑制します。

雨水利用 生活用水・工業用水・農業用水

生活雑水としては庭への散水や洗車用の水、トイレ洗浄水に、工業用水としては工場での利水に、農業用水としては作物への散水をはじめ洗浄水にも利用できます。

防火用水 防火水槽・防災備蓄用水

貯水量40トンクラスの防火水槽から、貯水量1万 m^3 クラスの大きな施設にも十分対応でき、震災時の緊急生活用水や消火用水としても備蓄できます。



汚染土の仮置場処理対策製品
土木建設資材の総合商社

株式会社 **建友**

代表取締役 **根本 勇**

本社 茨城県水戸市吉沢町333-4 電話(029)247-8405(代表) FAX(029)248-0155
支店 茨城県銚田市造谷1529-99 電話(0291)37-1335 FAX(0291)37-1335

E-mail: office@k-kenyu.co.jp



土浦市立土浦小学校



MITSUO YOKOSUKA
ARCHITECTURAL CO., LTD.

(株)横須賀満夫建築設計事務所

本 社／茨城県水戸市南町2-1-18アーキビル 〒310-0021
TEL 029 (225) 4353 FAX 029 (225) 1794
東 京 支 店／東京都杉並区梅里1-3-12 テラスキョウ101号室
〒166-0011 TEL・FAX 03 (5378) 6617
つくば営業所／茨城県つくば市宝陽台28-1 〒300-1254
TEL 029 (896) 3978 FAX 029 (896) 3968
U R L <http://www.design-yokosuka.co.jp>
E-mail yokosuka-mitsuo@bea.hi-ho.ne.jp



設計 & 監理

株式会社 柴 建築設計事務所

水戸市泉町3-1-28 第二中央ビル7階
TEL.029-227-0222[代]
FAX.029-231-0960



G-BEC地中熱の家

完成見学会 **2軒同時開催**

6/13(土)、14(日)、15(月) **参加費無料**

この度、地中熱空調システム「G-BEC」を導入した「全館空調の家」が完成となりましたので、現場完成見学会ならびに概要説明会・個別相談会を実施いたします。

↑タッグプレー↑
開催
記念品
プレゼント!

? **空調の効き具合は?**

地中熱の家

? **騒音・振動は?**

? **ダクトの収まりは?**

? **防災用の井戸もあります!**

? **湿度は?**

前回の見学会の様子



130名様以上のご来場

ハウスメーカー、意匠・構造設計、建築会社、コンサルタント、建材商社、地盤関連業者、新聞各社、茨城県議会議員、水戸市議会議員、自治体、いばらき成長産業振興協議会 その他 ※茨城新聞・環境新聞に掲載されました

丹下地中熱の家 完成見学会 (水戸市見川町)

6月13日(土) 10:00~16:00
6月14日(日) 10:00~16:00
6月15日(月) 9:30~12:00

南町地中熱の家 完成見学会 (水戸市南町)

6月13日(土) 10:00~16:00
6月14日(日) 10:00~16:00
6月15日(月) 9:30~12:00



概要説明会・個別相談会

水戸プラザホテル
2Fボールルーム(水戸市千波町)
6月15日(月) 13:30~15:30

参加ご希望の方は事前にお電話・FAX・メールにてお申込みください。

※詳細・申込用紙は弊社ホームページよりご覧いただけます。(http://www.a-rc.co.jp/) お名前、会社名、業種、ご連絡先(電話・メールアドレス等)、住所とご希望の見学日時をお知らせください。(当日のご参加も可能です)

メール: arc@a-rc.co.jp (担当:津田) ■協力/いばらき成長産業振興協議会(茨城県) 〒310-0836 茨城県水戸市元吉田町1041-4 サンビル2F
■主催/株式会社アルク ■共催/次世代地中熱システム研究会 **TEL 029-246-9511 FAX 029-246-9512**





計画地がどんな地盤か知っていますか？

アルクでは、地盤調査前に「紙上調査」資料を提供しています

「紙上調査」資料とは

※地域により、簡易地盤レポートは作成出来ない場合があります。

種類の地盤データを元に、様々な観点から調査地の地盤診断を行う資料です。調査地の浸水・地震・液状化等の災害リスクについて記載した「簡易地盤レポート」も併せて作成しております。

「紙上調査」資料は、こんな情報を提供しています

旧地形図

昔の土地利用が確認できます。

出典:国土地理院, Orkney



ベクトルマップ

現在の地図に等高線を重ねたマップです。

出典:NTT空間情報



航空写真+地形断面図

計画地と周辺の状況、傾斜方向が確認できます。

▼地形断面図

出典:Google, ZENRIN

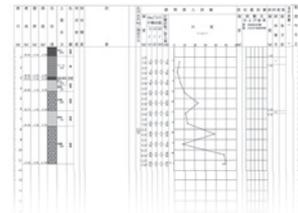


土地条件図、及び近隣データ

同地形の近隣データを参考に、地盤の状況が想定できます。

近隣柱状図データ①

土地条件：台地(上位面)



比較的調査地に近く土地条件も同じであるため、このデータに近い結果と想定される。

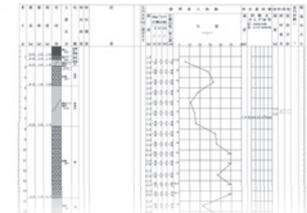
出典:国土地理院, Orkney



地域により、土地条件図は表示できない場合があります。

近隣柱状図データ②

土地条件：台地の凹地・浅い谷地



調査地と比較的近い場所のデータでも土地条件が違うと全く違う結果がでる可能性がある。

「紙上調査」+ スウェーデン式サウンディング試験 + ハンドオーガー調査 **30,000円(税別)**

※条件により別途費用がかかる場合があります

ボーリング調査・標準貫入試験・各種土質試験も行っております。

「茨城の地盤」
セミナー開催中

@開発公社

第1回

1月31日(土)

近年の地盤事故事例他

第2回

3月21日(土)

紙上調査の実践他

第3回

5月23日(土)

基礎各種判定の実践他

第4回

7月25日(土)

地盤補強提案の実践他

第5回

9月26日(土)

宅地造成の現状他

地盤に関する知識を深め、調査・設計・現場管理力を身につけるセミナーです。※講義 13:20~16:45 ※定員40名 ※資料代 3,000円/回

まずは、お電話・メールにてお気軽にお問い合わせください。

TEL **029-246-9511** MAIL **arc@a-rc.co.jp**



株式会社 アルク

〒310-0836 茨城県水戸市元吉田町1041-4 サンビル2F <http://www.a-rc.co.jp>



常陸太田市立峰山中学校



一般社団法人
茨城県建築士会

<http://homepage1.nifty.com/ishikai/>